

授業概要

これまで皆さんが中学・高校で学んできた日本近世史（江戸時代）に関する知識と通説は、現在まで残されているさまざまな史料（資料）によって組み立てられているものです。この授業では、通説のもとになっている史料を紹介しながら、講義します。そして、史料から歴史像をイメージしていくおもしろさを味わってみたいと思います。

時には、専門的な史料を読んでいくことで、より深く、立体的な歴史像を皆さんにもっていただくような授業を行うつもりです。見沼通船堀見学では、すぐ近くの国指定史跡について理解を深めるとともに、地域の歴史を考えていきます（事情によって実施できない場合があります）。

なお、教職課程のうち、中学社会・高校地歴の「教科に関する科目」の必修科目として充当されています。

授業計画

第1回	オリエンテーション（授業の案内）
第2回	統一政権の成立過程Ⅰ
第3回	統一政権の成立過程Ⅱ
第4回	統一政権の成立過程Ⅲ
第5回	幕藩体制の成立と構造Ⅰ
第6回	幕藩体制の成立と構造Ⅱ
第7回	幕藩体制の成立と構造Ⅲ
第8回	これまでのまとめと中間試験
第9回	さいたま市見沼通船堀・八丁堤の見学
第10回	見学の復習・まとめ
第11回	幕藩体制の展開Ⅰ
第12回	幕藩体制の展開Ⅱ
第13回	幕藩体制の展開Ⅲ
第14回	幕藩体制の動揺と近代への胎動Ⅰ
第15回	幕藩体制の動揺と近代への胎動Ⅱ
第16回	期末試験（定期試験期間中に実施）

到達目標

自治体史などの活字史料を活用して、自分で解釈と現代語訳ができるようになり、卒業論文でオリジナルな内容を書く基礎を身につけること。

履修上の注意

- 平行して「日本史資料講読（古代・中世）」、「日本文学講読（古典Ⅰ・Ⅱ）」を履修するとよいでしょう。
- 授業で扱う史料は全て古文です。
- 毎回出席を確認します。遅刻は平常の受講の様子から減点します。

予習復習

- 前回までのテキストを復習することにより、古文書の読み方を身につけることを課題とします。

評価方法

- 平常の受講の様子と中間試験、期末試験の合計により評価します。割合は40:20:40です。
- 中間試験と期末試験では、授業で取りあげた史料に関する理解度を試します。

テキスト

- 歴史学研究会編『日本史史料 [3] 近世』（岩波書店、2006年、ISBN4-00-026138-X）。必要な部分を印刷して配布します。
- 福澤徹三『一九世紀の豪農・名望家と地域社会』（思文閣出版、2012年、ISBN978-4-7842-1642-0）および浦和市立郷土資料館編『見沼 その歴史と文化』（さきたま出版会、2000年、ISBN4-87891-124-7）も参考図書とします。